

ふれあい天文学

1月20日(金)3校時に小学校3~6年生、4校時に中学生が、「ふれあい天文学」を実施しました。「ふれあい天文学」は国立天文台の天文学者が、国内外の小中学校で天文学や宇宙の授業を行う取組です。本校も総合的な学習や理科の授業の一環として、今年度も実施しました。今回は、国立天文台 天文情報センターに所属する平松正顕さんをオンラインでお招きし、宇宙や小笠原の星空の話などをさせていただきました。

小学生の部では天体の大きさや太陽系の公転軌道のスケールを、身近なボールや母島の土地をもとに例えてくださり、想像を巡らせながらお話を聞くことができました。中学生の部では、2021年12月25日に打ち上げられた最新の宇宙望遠鏡 ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡で分かる宇宙の姿や土星、土星の衛星エンケラドゥス、タイタンなどのお話も聞くことができました。また、国立天文台が開発したソフト「Mitaka」を用いて、地球から外に飛び出し、宇宙の広さや太陽系、銀河系などの大きさ、数を実感した時には、児童・生徒から「すごい。」「大きい。」など、素直な反応が上がりました。

最後の質問コーナーでは、多くの質問が飛び交い、その質問の内容も思わず感心するようなものが多かったです。児童・生徒の新鮮な疑問、視点を専門家の平松さんがすくい上げ、児童・生徒の探究心を刺激する1時間でした。より深い宇宙に関する話に耳を傾けることで、小笠原の星空を見ながら宇宙に思いを馳せるきっかけとなった機会でした。



「Mitaka」はフリーウェアで、個人的に楽しむ目的であれば、誰でも自由に使用できます。
QRコードから、国立天文台の「Mitaka」にアクセスできます。

